

共に学び考える生徒を育てる指導法の研究

～アクティブ・ラーナーの育成をめざして～

1 令和元年度までの本校の取組

本校では下記のような「学び」のスローガンを掲げ、全教職員で学力向上に向けて研修を進めています。何よりも1時間1時間の授業と生徒一人ひとりの家庭学習の定着が両輪となって初めて学力向上に結びつくと考えています。

「学び」のスローガン

未来をたくましく生きる

「アクティブ・ラーナー」
が育つ富岡中学校

<授業で>

- ① 学習目標の確認！
- ② 先生の話をしっかり聞き、自分の考えを明確にしよう！
- ③ 話し合い活動では、意見を伝え、他の意見を聞き、主体的に活動しよう！
- ④ まとめを聞き、学習目標が理解できているか確認しよう！
- ⑤ 「振り返り」を行い、理解を高めよう！

<家庭学習で>

- ① 「自主学習ノート」を使い、進んで毎日50分以上！
- ② その日のうちに復習！
- ③ 次の授業に向けて予習！
- ④ 自分の課題をはっきりさせ、解決に向けて工夫して学習！



【<家庭学習で>の補足資料】

家庭学習の手引き

年度当初、生徒へ説明して保護者会で「家庭学習の手引き」を配布しています。毎日教員が家庭学習ノートを確認し、生徒の意欲を高めるようにしています。

1 家庭学習のねらい

- 学んだことがわかる楽しさを実感しよう。
- ノートに無駄な余白を作らないようにしよう。
- 自分から進んで勉強する力をつけよう。
- 学習の習慣・基礎的な学力を身につけよう。

2 家庭学習の目標時間 全学年50分(塾などの講義の時間は含まない)

3 家庭学習のルール

- 毎日決まった目標時間を勉強しよう。
- 始める前に具体的な目標を立てよう。(取り組む時間・内容)
- ワークを解くときはノートに必ず書こう。(問題の長文などのコピーは貼ってもよい)

4 取り組み方 (Basic study note を使って1日を振り返ろう)

- その日の授業の振り返りをしよう。
- 授業内容をまとめよう。
- 取り組んだ Basic study note を、クラス内で回覧し、家庭学習を充実させよう。

1時間目	体	バレーボール、ハンドボール	(P. ~ P.)
2時間目	道	臓器移植について	(P. ~ P.)
3時間目	英	6-3	(P. ~ P.)
4時間目	社	昭和時代	(P. ~ P.)
5時間目	理	放射線について	(P. ~ P.)
6時間目	教	Y・A・Sのグラフ	(P. ~ P.)

2 埼玉県学力・学習状況調査からの課題

思考・判断・表現の得点率の低下、また、知識・技能の無回答は0に近いが得点率は県平均より10%低い状況から、「人的リソース方略と作業方略のバランス」が重要と考えました。

3 課題解決への取組

(1) 校内研修の充実

① 指導力を高めるための授業研究

本校では、年度初めの目標に1人1授業研究を設定しました。教科の壁をなくし、1年間を通して指導案検討を行うグループ分けを行い、グループ毎にそれぞれの指導案の検討会を1・2学期の内に3回実施しました。検討会を行うことで、視点の違う意見を取り入れることができ、互いに幅広い指導を展開できるようにしています。また、授業の中ではフィードバックを意識した授業を心がけています。

② アクティブ・ラーナーを育成するための授業構造【思考力・表現力向上の構造】

授業者は、50分間の授業の中で、どの場面でどのような手立てでアクティブ・ラーナーを育成するのか教材研究を行い、授業を組み立てて授業に臨みます。その時の構造が以下の図となります。



(2) 学力向上のための学校全体の取組

① 教室環境の統一

教科連絡や連絡黒板としてどのクラスにも同じ位置に同じホワイトボードを設置しました。教室環境が統一されることで安心感を得られます。

② 帰りの会での1分間スピーチ

国語の授業の発表の仕方を、学級活動でも同じように意識をさせ、表現力の向上に努めました。

③ NIE タイム

新聞を読み、一人ひとりが1つの記事を選び、その内容を要約し、意見を考え180字程度の文章を書く時間を月に1回確保をしました。習慣化してきた時期を見計らい、内容の充実した生徒が朝会で発表する時間を設定し、スキルアップの機会を設定しています。また、廊下に掲示されている個人のポケットに入れておくことで他の生徒が見られる状態にし、更なる質の向上を目指しています。



統一された教室環境



スピーチの様子



NIE タイムの様子

④ 家庭学習のプリント設置

学習内容に困った生徒に向けて生徒が自由に取ることができるようにしたプリントコーナーを設置し、授業の進捗に合わせて復習ができるよう各教科工夫を凝らしたプリントがファイルの中に入っています。

⑤ 家庭学習キャンペーンの定期的な実施

1日最低50分の家庭学習の習慣化を図るキャンペーンを学期に1回設定しました。生徒の学習形態の分析を行いました。

⑥ スクールカウンセラーによる表現力を高める授業

表現の方法をロールプレイなどで学ぶことにより、実際の場面で表現する力を育成しています。



家庭学習の補足プリント



家庭学習キャンペーン



SCによる授業

⑦ 学期に一回の授業アンケートの実施

授業アンケートより

①授業で「何ができるようになるか」を理解している	84.4%
②自分の意見を伝え、相手の意見や先生の話聞くことで考えを深めている。	79.4%
③考えや意見・学んだことを自分の言葉で書いているか。	78%



本校の職員が小学校で授業をサポートの様子

(3) 加配教科(数学科)の取組

① 学力向上を目指した小中連携

週2日、中学校の数学科の教員が富岡小学校へ出向き、4～6年生の授業をサポートしています。

【小学校と中学校の情報交換会】

中学校数学科の教員と小学校4～6年生の担任で、互いの共通理解を図るために各種学力調査の分析結果の情報共有をし、児童生徒の様子や学習する上で苦手としやすい内容や課題解決に向けた意見交換をしています。児童生徒が共通に苦手とされている問題の読み取り、思考力、表現力について、各教科で児童生徒の理解を深め、解決策などについて話し合いを行い、現状と今後の指導法について全体で共有し、各自の授業で活用しています。

② 数学科の校内での取組

ア 計算トレーニング

基礎・基本の向上の取組として、年間を通して授業のはじめ5分間ほど行っています。1年目はコバトン問題集を中心に計算力反復練習、授業で扱っている定義や条件の復習を取り入れました。2年目は全学年統一で解説付きのトレーニングシートを使用しました。取り組み後、回収して理解度を確認し、生徒個人が解き直しをして教員へ提出しています。

イ レポート課題

思考力・表現力の向上として、章末問題や、定期テストの解き直しのレポート課題を実施しました。レポートには式や答えを書くだけでなく、途中式・解説を書けるようにしました。

ウ 細かく段階を踏んだ授業

課題に対して一人で取り組むのが難しい生徒も多く、文章問題や既習事項を活用したり、応用、発展させたりする問題の中で、細かく段階を踏んだ授業を実施しました。例題の解き方を丸写しすることから始め、穴埋め、自力で記述できるように工夫しました。

エ 振り返りカード

毎時間の最後に振り返りカードを記入するようにしています。振り返りカードは、授業の内容を振り返る、授業で分かったこと（式・グラフ・図）を自分の言葉で記述するようにしています。はじめは、書く内容を考えることに時間がかかり、学習した式や単語をただ書くだけの生徒もいましたが、今では授業のノートや板書を見ながら自分で振り返ることができるようになってきました。次時にカードを見ると、前回の授業の内容も振り返ることができます。

オ 富中検定

図形分野の合同条件等の暗唱練習、検定試験を実施しました。約82%の生徒が取り組みました。

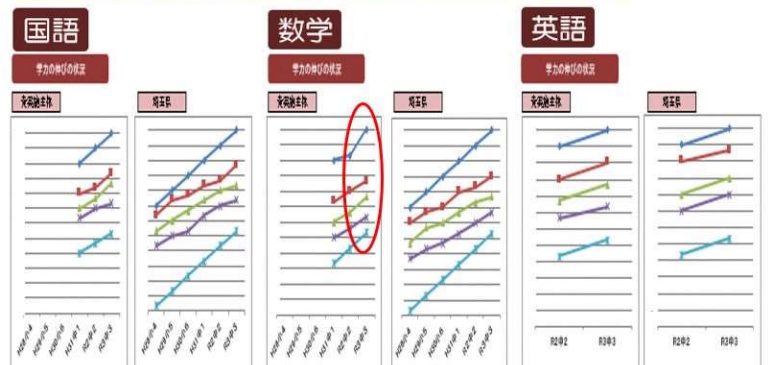
級	項目名	暗唱文	日付	先生のサイン
4	二等辺三角形の定義・性質	二等辺三角形の定義は、2つの辺が等しい三角形。 性質は、 ①二等辺三角形の2つの底角は等しい。 ②二等辺三角形の頂角の二等分線は、底辺を垂直に2等分する。		
3	正三角形の定義・性質	正三角形の定義は、3つの辺がすべて等しい三角形。 性質は、正三角形の3つの角は、すべて等しい。		
準	直角三角形の合同条件	①斜辺と1つの鋭角が、それぞれ等しい。		

4 研究の成果と今後の課題

令和3年度の調査から見られた成果



令和3年度の調査から見られた成果



令和3年度の調査から見られた成果



- (1) 小中連携の中で互いの授業から、出来ること、良い内容をこれからも多く共有していきます。
- (2) 学力調査の分析をもとに今出来ていることは継続し更に向上させ、苦手なことは克服できるように、既習事項や既習用語、振り返りや繰り返しの学習を積極的に行っていきます。
- (3) 思考力・表現力の向上のために、多面的・多角的な思考をさせる工夫を授業に取り入れ、計画的な「個別最適な学び」「協働的な学び」の実施を目指します。
- (4) 生徒自身の力で、見通し→振り返り→課題解決を目指し、そのための力（基礎・基本、特に知識・技能）を育める授業をさらに研究します。